

H22.3.2 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成22年3月2日(火) 9時00分～12時50分

議事概要：

表 H22.3.2 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし	・特になし	・特になし
2.野外実験について	・飼育改善試験の結果について報告した。	・3回目(冬期)の試験では個体の活性が下がり、改善効果が不明であった。	・改善試験によってどれだけ改善されたのかということ、を半年間、冬の期間、といったように期間ごとに改善状況を整理すること。	・事務局：全ての水槽を循環式に変更したので、今後、定期的に改善状況をチェックする。
	・放流実験および直後モニタリング結果について報告した。	・12月に1歳魚30個体、2歳魚10個体を放流し、5日後に3個体目視確認した。	・放流直後モニタリングで、過去に放流した個体は確認されているか。	・事務局：放流直後モニタリングでは確認されていない。平成22年6月に春季のモニタリングを行う予定である。
	・平成22年度の繁殖計画について協議した。	・繁殖計画について報告した。	・親魚の飼育方法については、回転率を一週間に1回程度として掛け流しにする方法もある。 ・餌についてはタンパクや脂質の比率を上げるのも有効と考える。	・事務局：繁殖親魚の成熟、繁殖に関しては、可能な方法を全て検討し、取り組んでいく。
3.人工水路実験について	・隠れ家実験の途中経過について報告し、第3回実験の石積み方法について協議した。	・第2回実験までで石積み内部に木造構造物を配置したタイプが選好されている。	・ペアリングについては、優先度の高い順に検討するが、幅を持って考えた方がよい。 ・近親交配があればプラスの情報だが優先度は低い。	・事務局：親個体の実際の成熟度をみながら優先順位と合わせて検討する。
			・木造構造物を入れるかどうかで、構造の難易度は変わる。礫だけで再現できれば楽になるので、そこをチェックすることは必要だろう。 ・前面からの光も遮光する照度コントロールは良いと思う。	・事務局：第3回目の対照タイプは、内部を大きなサイズの積石とし、その周辺を小さい礫で覆い、入口を狭くして内部を暗くする構造とする。
4.支川のポテンシャルについて	・支川の生息環境調査結果について報告した。	・底生魚類は前回結果と今回結果について精査して考察を進める。 ・底生動物については不明な部分があるのでさらに検討する。	・次のステップは現場に設置できるか、良い場所を選定できるか、という設置場所の検討としたい。 ・問題があればフィードバックする。	・事務局：今後は野外での設置など、汎用的なものとなるように考慮する。
			・ポテンシャルとしては問題ないとのことであれば、次のステップはキャパシティの問題である。 ・移植放流するなら、どの程度の代替地となりうるか、個体群を維持できる見込みがあるかを整理する必要がある。	・事務局：次のステップでは、全体の流れの中で、減少要因とキャパシティを整理する。

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
5.モニタリング調査結果について	・今年度実施したモニタリング調査結果を報告した。	・横穴量変動調査で間隙の変遷と変化率を明らかにした。	・横穴量変動調査結果は生息環境の年変動を簡便に把握できる可能性を示している。 ・下流河川モニタリングにおけるネコギギ生息場の指標値と横穴量とはどのような関係にあるのか。	・事務局：ネコギギ生息場の指標値には変数の一つとして横穴量も含めており、必要不可欠な情報と考えている。
6.転流工対応について	・転流工対応として実施した調査結果について報告した。	・転流区間の物理環境調査結果(事前調査)を報告した。	・特になし	・事務局：特になし
7.ネコギギの保全について	・ダム下流河川の保全方針を報告した。	・ダム下流河川のモニタリング手法について報告した。	・ダム下流河川のモニタリングでは、環境要因が許容値に入れば良いという方法とするのか、環境要因の変化に対して応答していく(そのプロセスを明確しておく)方法とするのか。	・事務局：併用して進めていくことを考えている。最低限の基準を設けつつ、最適値を求めて運用を行っていく。ただし、基準値を設けられない項目については、定性的に方向を決めて実施する。
			・ダムのインパクトについて、具体的にどういうインパクトが想定されるかを整理していただきたい。 ・現実的な対応に近づけて、合意を取っていくことが重要である。ゆっくりでいいので進めていただきたい。	・事務局：ダムのインパクトは上流と下流で異なり、また、時間によっても異なるので、今後整理していく。
8.ネコギギ以外の魚類について	・当該地方のカジカに関する保全について協議した。	・カジカのカビタツ調査結果について報告した。	・具体的な検討が行われていて良い。 ・実際に保全対策に入る前に、ダムが完成したときにカジカにどういうインパクトがあるか、個体数、個体群サイズ、存続性等の指標で、影響評価と代替措置の見込みを定量的に示していただきたい。	・事務局：今後、水温等の調査結果を加えて検討していく。